

第26回 経営フォーラム 2019 in いさはや

「令和維新」

大自然の中で初心に戻り
次代の経営力を創る

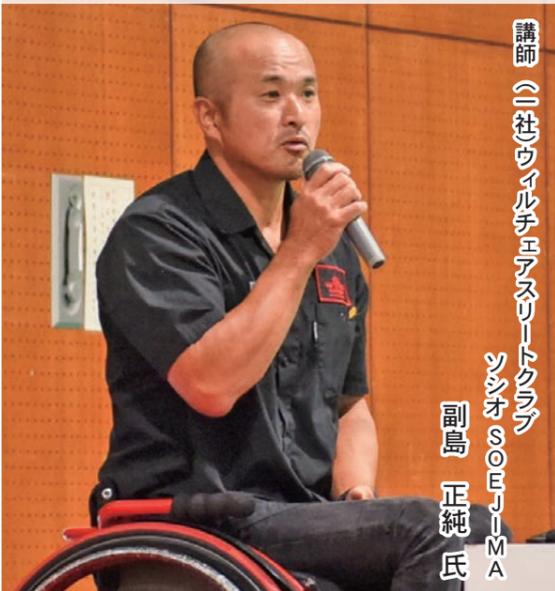
開催日：2019年10月19日(土) 会場：国立諫早青少年自然の家

経営フォーラムニュース



記念講演 次代への挑戦

～今、私にできること～



講師 (ニッセイビルチエラスリットクラブ)
副島 正純氏
ソシオ SOEJIMA



記念講演
次代への挑戦～今、私にできること～
パラリンピック銅メダリスト
長崎県立諫早高等学校
副島 正純氏



次期経営フォーラム担当
長崎出島支部長 田中 清隆



謝辞
副実行委員長 山崎 三郎



来賓あいさつ
長崎県産業労働部 次長 村田 誠 様



あいさつ
代表理事 金井 政春



閉会宣言
諫早支部長 馬場 一信



第5分科会報告



第4分科会報告



第3分科会報告



第2分科会報告



第1分科会報告



閉会宣言
副実行委員長 廣谷 慎也



実行委員長 平湯 湧一

◆全体会・記念講演報告
文責 部会長 時 寛
諫早支部が企画運営した第26回経営フォーラムは盛況のうち閉幕しました。これまでに前例のないことづくしであったため様々な障壁がありました。当初より「初心に帰る」、「険しい道を選択する」というテーマを掲げておりましたので、達成感とともにそれを体現したような感覚でいます。
大自然の恵まれた環境の中5つの分科会を開催し、その分科会に共通して流れていたテーマは「次代」へ向けたものでした。激動の社会環境の

変化の中どう生き抜くか、どう変化しなければいけないか、何を大切に想い守っていかなければならないかを考えさせられる学び多き分科会であり、全体会では部長のみならず、報告をいただきました。
そして、記念講演の講師を務めていただいたのは、車いすマラソンでこれまでパラリンピックに4度出場をされた副島正純氏でした。突然訪れた障がい者としての人生。「自分ならば、その後の人生をどう生きていくか」と自分に置き換えて聞いておられた方も多かったのではないかと思います。副島さんの場合は、すぐにスポーツと出会われ、それは前向きであったからその出会いだと感じました。自暴自棄になって現実から目を背けていたらそんな出会いもなかったらと思います。副島さんの「楽しんで生きることを諦めない精神」の賜物です。
与えられた環境、訪れてしまった環境を真正面から受け入れ、その中で今の自分のできることは何かと考える。そして周りの人の幸せまで考える。その活動が子どもたちに車いすレースの楽しさやテクニックを教える今のチームの活動に繋がっているのではないかと思います。
副島さんは冒頭で「私は経営者でもなんでもありませんが」とおっしゃっていましたが、まさに今経営者が考えるべきことではないかと思えます。社会環境は大きく、ものすごいスピードで変化しています。まず、その変化を真正面から受け入れなければなりません。そして、私達はそれの中で生きていく方法、人を生かしていく方法を模索しなければなりません。私達は挑戦者たることを忘れてはならないと思えました。
それぞれの中で「今、私にできること」を問う良いきっかけとなりました。

第1分科会 次代の人財発掘と確保

令和時代がやってくる。これからの人財確保と戦略。

学校法人 鎮西学院 長崎ウエスレヤン大学 代表学生
コーディネーター 学長 佐藤 快信 氏 (諫早支部 産学連携委員会副委員長)

文責 室長 木下 満也

「令和維新」と掲げた今回のフォーラムは、昭和・平成・令和と移り行く時代を創り出していったようでした。
3月の諫早支部例会時に平湯実行委員長が紹介された、植松努氏のメッセージの一つである「迷ったときは、大変そうな方を選ぶほう。」を支部会員が共有し10月フォーラム開催までの長い道のりを歩んで行きました。

きたの」と驚いたに違いありません。昭和世代が数十人集まれば一日足らずでできるが平成世代にはなしえない仕事ではないだろうか。しかしながら平成世代はできあがった竹灯籠を使った配置デザインとか、アートの世界はスマートフォンからの情報で巧みに演出できます。
このように時代の流れのなか、その時代時代の良き教えを伝え、学び、共有できた第26回経営フォーラムでした。

トークには驚きを感じました。若者ことばや若者の生態、若者の取説まで堂々と発することのできる若者が平成の中で育っていました。
驚くこと多いトークの中にも時代を超えた共通点がいくつかあり安心しました。
その一つに、「褒められて成長する」と言うフレーズでした。これは昭和の人ならもちろん「褒めてやらねば人は動かじ」です。このように育った時代で教育環境が違い、行動・ライフスタイル等が違っても心はなかく求めているものは、いつの時代も同じなんだと気づかされました。



労働者派遣法が改正され人材派遣が自由化された平成があり、外国人労働者の受け入れを進めている令和が始まったこの時代で様々な人材が発掘されようとしています。
次代に向けて、その時代の経営環境をつくりあげ、労働者に選ばれる企業づくりが必要ではないかと感じた分科会でした。

第2分科会 次代への経営力

令和時代の経営改革力こそ、「守・破・離」が原点～

～企業淘汰が加速する令和元年、収益基盤再構築の年～

株式会社 昭和堂 代表取締役 永江 正澄 氏

文責

室長 張本 優子

日本では2000年つづく企業は3000社。その企業に共通していることは「あいさつ」「掃除」「人材教育」「社会貢献」です。「平成は停滞期令和は衰退期」ビジネス戦略の変革が必要な時代です。人材も多能工化に取り組み、一人二役三役体制を進めています。「2040年には、印刷物が無くなり、本も新聞も教科書も読まない子供が大人になって印刷会社に仕事の依頼はしない。」本好きの私にはショックな報告でしたが、そういう時代は必ず来るでしょう。
「印刷会社と競合しない昭和堂」マーケティング、デジタルソリューション、パッケージデザイン、サインディスプレイ等々「印刷だけに頼らない会社」とし、印刷会社のイメージ変革にテレビCMを採用されました。その采配により、「印刷だけじゃない昭和堂」ということが顧客にも伝わってきています。
創業時から「お客様あつての昭和堂」「会社は人間形成の場である」を守り、社員の



育成、新入社員研修にも力を注いでおられます。新入社員がつくった入社案内も、できないだろうとの声も上がる中、模索し協力し、分らないところは先輩に教わり見事に完成されました。社員の大きな成長と自信に繋がったことと思います。「風の人」と「土の人」。風は新しい考えを運ぶ人、土はそれを育む人、「風土」社風。新しいアイデアを育み実となるよう実践していこうと思います。
経済の縮小も懸念され、少子高齢化社会、災害も多くなっている令和時代、何が必要か、取組・対策・実行していくかが大事だと思います。「悲観的に考え、緻密な戦略で楽観的に行動する」この言葉を胸に、何があっても乗り越えていこうと思います。素晴らしい報告をありがとうございました。



第3分科会 次代へ繋ぐ事業承継

亡き父へ、そして我が子達に伝えたい事

～21世紀型企業をめざして～

有限会社 谷田建設 代表取締役 社長 谷田 政行 氏
(佐賀県中小企業家同友会 代表理事)

文責

室長 嶋崎 雄樹

近年多くの企業が直面している問題の一つであろう「事業承継」をテーマに佐賀で建設業を営む谷田さんにご自分の実体験をもとに報告していただきました。
先代のお父様が始めた土木業を兄弟と一緒に盛り上げていく中で、大きな仕事を成していくためには家族経営ではなく、社員として人材を求めていかないといけないこと。事業の方向性について家族だからその確執があったこと等を通して、試行錯誤を繰り返しながら経営について学び、社員に対しての考え方として、会社の売り上げをあげるために存在するという手前勝手な考えではなく、一緒に事業を成していくかけがえない仲間という思いに至りました。
こうして、会社を発展させてきた谷田さんも2人のご子息に事業を承継する時期になり、ご自身の経験・会社への思い・親への感謝の気持ち・子供達への思いを赤裸々に語っていただきました。

実際に、谷田さんの次男さんも来られて話を聞いておられました。現在は大学院を休学して谷田建設の別部門を新しく起業し代表として活躍をされているそうで、会場の受講者からは「お父様の話を聞いてどう思うのか?」と言った質問に少し照れ臭そうにしていた姿が印象的でした。会場には事業承継に頭を悩ませている会員さんが多く出席されており、良い事例を聞くことができた満足された様子でした。



第4分科会 ダイバーシティは次代を変える!!
ダイバーシティビジネス、
これからの日本と世界の市場と雇用など
 合同会社 HRC 代表社員
 NPO法人 長崎バリアフリー推進協議会 理事長
 長崎食物アレルギー協議会 代表
安井 忠行 氏
 (長崎出島支部 班長・青年経営者会 顧問)

「これはチャンス」と、報告を聞いて強く感じました。「家族旅行へ行きたいが、車椅子を必要とする家族がいるので、家族旅行を断念した...」「家族で外食したいが、アレルギーを持つ子どもがいるので、外食を諦めた...」この家族のお話を、どう考えますか。「残念」という感想が浮かぶと思います。これは安井さんが実際に体験されたお話を要約したのですが、安井さんはこの体験をもとに「100-1=0」「99+1=2000」という2つのキーワードを掲げました。実は、この物語で残念だったのは家族だけではないのです。例えば、100人の修学旅行を準備している学校があり、児童の1人が車椅子を使用しているとします。相談を受けた宿泊施設が、その1人の児童に対する準備ができないとなると、その宿泊施設は残り99人の宿泊客も逃すことになり、とても「残念」です。「100-1=99」にはならないのです。さらにダイバ

シテイという考え方が浸透しつつある今、受け入れる態勢が整っている施設の情報は、瞬く間に拡散され「99+1=100」ではなく、2000にも3000にもなりうるということ、すなわちチャンスなのです。(実際、早くから取り組んできた沖縄県は現在、観光地としてハワイを抜き第1位となっているとのこと。報告では他にも超高齢化社会についての事例も交えてのお話もあり説得力ある内容で、様々な業種にあてはまり、参加された皆様それぞれに、気づきがあったことと思います。また、今「ダイバーシティ」という言葉単体ではなく「ダ



イバーシティ&インクルージョン」と、あわせて用いることが増えている。というお話もあり、雇用に対しての今後の考え方もあわせて、グループごとに熱くディスカッションが行われていました。



第5分科会 原点回帰から始まる次代への経営指針づくり
経営指針で見えてきた
我社の未来像
 株式会社 恵比寿組 代表取締役 谷 信一郎 氏
 (大村支部 副支部長)



ここで「自分は経営者として失格だった!何を間違ったのか?自分には何が足らなかったのか?」そんな時に同

谷さんは諫早商業高校を中退したところを京都の叔父さんから水道工事を手伝うように言われ、叔父の経営する建設会社に入社されます。ここで水道工事と出会いました。また、叔父の勧めもあって伏見工業に入学され今度は無事に高校を卒業されました。そして更に彼を目標させたのは現在の奥様との出会い、そして結婚です。本気になった谷さんは2人の故郷である大村市に帰省し、地元の水道工事に就職し、経験を積み、その後2001年にフリーの配管工として独立されます。「水道工事が好き!俺の一生の仕事だ!」と仕事も増え社員も2人3人と4人と順調に増えていっていましたが、2008年リーマンショックの影響で仕事が激減、昨日まであった仕事がパタッとなくなり社員も次々に退社してしまいます。

今後は朝礼の実施、事務所の拡充、社員の1名増員、経営計画発表会チェックリスト作成、ホームページ作成、勉強会の開催を行いました。谷さんの人柄、誠実で真面目、家族と同じように社員を大事にされる優しい心に感動した報告でした。



文責 室長 渡邊 享介

文責 室長 菅 隆信

先順位がはっきりした。また、経営者としての意識が高まり、経営と向き合うことができ、社員も一人一人の目標ができて自分の役割が明確になった。しかし、社員の共感が得られない経営指針は絵にかいた餅であることに気づき、社員と共に考え話し合いを重ねられます。現在は社員の方にも経営指針が浸透し、凄く良い関係が築かれているように感じました。今後は朝礼の実施、事務所の拡充、社員の1名増員、経営計画発表会チェックリスト作成、ホームページ作成、勉強会の開催を行いました。谷さんの人柄、誠実で真面目、家族と同じように社員を大事にされる優しい心に感動した報告でした。

懇親交流会

◆懇親交流会報告

文責 部長 山口 大輔

今回は、実行委員長から前代未聞の懇親交流会にしてくださいとの依頼があり、前代未聞の懇親交流会になるように力を込めました。当日の懇親交流会は、開会の挨拶、乾杯の挨拶の前に、竹灯籠の仄かな明かりのなかで諫早支部のテーマソングである「糸」を会員の演奏のもと参加者全員で合唱し、スタートいたしました。司会は、諫早支部の渡邊会員と鐘ヶ江会員が務めました。

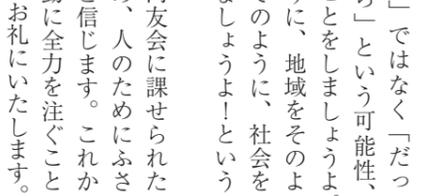


リオンビールでの乾杯は、馬場支部長が九州・沖縄ブロック支部長・支部役員研修交流会に参加した際に沖縄同友会から沖縄のPR依頼を受けたことにより企画したものです。

そこから、お食事を楽しんでいただき、自然の家では普段はお目にかかれないアルコールもビアサーバーでのセルフスタイルを交えて提供させていただきました。皆様楽しんでいただけたように思います。

アトラクションは、豪華景品争奪じゃんけん大会、支部対抗じゃんけん大会やプロのアーティストによるミニライブ、また、登録目標数である320番目の方に登録ビタリ賞の表彰なども行いました。とても素晴らしいアトラクションになったことと思います。

今回、自然に囲まれたフォーラムだったのに対して、今回は、長崎島支部による都会的なフォーラムになることだろうと思えます。また、次の実行委員長は、安井さんのお務めになるということで、大いに度肝を抜かれるようなフォーラムになると確信しております。



結びに、今回のフォーラムの熱量を持って、同友会の皆様から幸いに思っています。諫早支部もこの熱量よりさらに熱く盛り上げてまいりたいと思えます。ご参加・ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。

経営フォーラムを終えて
実行委員長 平湯 湧一



令和の新しい時代を迎えこれほど素晴らしい経営フォーラムの開催場所はないと確信しました。国立諫早青少年自然の家はまさに初心に帰り、次代の経営力を創

るというテーマにふさわしい環境だったからです。

しかしながら5つの分科会、全体会、記念講演、懇親交流会、宿泊体験を実施するには厳しすぎる場所でもありません。度重なる実行委員会、現場でのコミュニケーション、前日の準備、当日早朝からの準備、経営フォーラム開催、翌日の撤収作業、支部会員の皆様には大変ご苦勞をおかけいたしました。皆様にご協力いただいたおかげで素晴らしい結果を残すことができたと思えます。感謝に堪えません。苦勞が多かった分感動が沢山ありました。これからの支部活動、会社経営にきつと役立つだろうと確信いたします。

物事を決める時ややると、楽な方を選びます。安心だし苦勞も少ないし、他の人からの批判もあまりないからです。しかしながら、今回あえて諫早支部は厳しい選択をし、実現することができたのは、4月19日定時総会で記念講演をしていただいた北海道同友会の植松努さんの「思うは招く」のテーマが後押ししてくれたのおかげです。

「どうせ無理」ではなく「だったらこうしたら」という可能性、未来が開けることをしましょうよ。家庭をそのように、地域をそのように、会社をそのように、社会をそのようにしましょうよ！という講演でした。

中小企業家同友会に課せられた役割は世のため、人のためにふさわしい活動だと信じます。これからは同友会活動に全力を注ぐことを誓い、感謝とお礼にいたします。

第26回 経営フォーラム2019 in いさはやご来賓の皆様

- | | |
|----------------------------|---------|
| 長崎県 産業労働部 次長 | 村田 誠 様 |
| 諫早市 商工振興部 次長 | 松本 和久 様 |
| 大村市 産業振興部長 | 高取 和也 様 |
| 長崎県商工会連合会 会長 | 宅島 壽雄 様 |
| 西海みずき信用組合 理事長 | 陣内 純英 様 |
| 長崎県中小企業団体中央会 事務局長 | 井上 一幸 様 |
| 日本政策金融公庫 長崎支店
中小企業事業統轄 | 大下 明史 様 |
| 日本政策金融公庫 佐世保支店 支店長 | 島口憲一郎 様 |
| 親和銀行 執行役員 諫早支店長 | 松本 英也 様 |
| 長崎県立希望が丘高等特別支援学校
進路指導主事 | 堀 大輔 様 |
| 国立諫早青少年自然の家 所長 | 内山祐二郎 様 |

(順不同)

第26回経営フォーラム アンケート集計

(一部抜粋)

◀第1分科会▶ 「人財」 報告者 長崎ウエスレヤン大学学生

○令和の若者という中で外国人(留学生)も含めて考えられているところが新鮮で自分の考えが古臭いことに気がついた
○今学生が考えていること、望んでいること、価値観を感じることができて大変よかった ○ホームページの充実を図らないと若者の支持を得られないことを実感した ○令和時代を担う若者に対して共有に必要なことがわかったような気がした ○人材を採用する時に相手の得意なところ、求めている環境、給与を含む待遇など、十分に考え、良い人材から選ばれる会社づくりに取り組んでいきたいと思った

◀第2分科会▶ 「経営力」 報告者 (株)昭和堂 永江 正澄氏

○時代の变革の中に具体的に対応していることにびっくりした。同友会のスローガンにある相談に応えられる会とあるが、まさにそれができそうだと思う。個人的にも自社の課題を相談し、変革していきたいと思った ○方向性をしっかりと持ち、誰のための会社なのかはっきり見定める。小回りの利く会社にして対応の幅を広げていく。設備投資も補助金等を取り入れながら対応していく ○永江社長の社員に対する思い、会社に対する思いがひしひしと伝わりましたが、新入社員にどう接しているのか非常に興味を持ちました。是非70歳まで働ける会社を実践してください ○企業は人財が大事です。社員教育基本的なことをちゃんと行えば、令和の厳しい時代も何とか乗り越えていける気がします ○他業種の方とのディスカッションはとても刺激になった。やはり金、人、物と業種はちがえど同じような不安があることを見れた。2代目として代表をされている方も多く引継いだことでの考え方を聞いて大変興味深く話をできました

◀第3分科会▶ 「事業承継」 報告者 (有)谷田建設 谷田 政行氏

○実現、実行。早く次の世代に向かって商売のやり方を変えて同じ会社で違う内容の会社をつくる。兄弟でもめないために！これが勉強になった ○息子に承継することについて今の社長の気持ちをはっきりと言って、やるか、やらないか確認してokならまさせる。口出ししない ○事業承継、パトタッチする日を前もって決めておくことはゆるぎない側にとっても大きく側にとっても自覚と意識ができていいことだと思います ○何をやるにも強い意志を持っておられることを感じました。自分も自分自身をたてなおし、意志を強くもちたいと思います ○社員1人1人との会社関係を今一度見直して1人1人とのつながりをもっと大切にしていきたい

◀第4分科会▶ 「ダイバーシティ」 報告者 (同)HRC 安井 忠行氏

○身近なきっかけからアイデアが出て行動に移す大切さを感じました。ダイバーシティはぜひ取り組みたいと思います ○ダイバーシティ社会に向けて教育機関としても考え方を柔軟にすべきことがたくさんあると感じました ○障がい者とのリンクが重要だと実感でき、仕事にしっかり反映したい ○インクルーシブリーダーの育成に努めたい ○D&I+サステナビリティ、目指す社会像が明確になりました。職場や地域、自分にかかわる社会の中で、自分ができることから取り組んでいきたいと強く思いました

◀第5分科会▶ 「経営指針」 報告者 (株)恵比寿組 谷 信一郎氏

○経営指針の大切さ、理念の大切さ、またそれを浸透させることの重要性を学びました ○理念、10年ビジョン、計画の重要性を再確認 ○経営指針を毎月ふりかえり、今の立ち位置を認識すること。学生時代から久しぶりに来たが学びの場には良い環境と思った ○経営理念は必要とつくづく感じた。保育園に入れる時、8か所まわって経営理念のある保育園に入れた。それが松原の保育園だった。それで松原に住むようになったという話に感銘を受けた ○他社のみなさんの意見を聞いたことで自分の行動と照らし合わせることができた。自らが源として行動していくことの重要さが分かった。経営指針を自分に甘えず作成します！

